

港湾振興便り



2011. 11
第55号

目次

1 ポートエッセイ 「日本海沿岸に世界都市が誕生」
～日本港湾振興団体連合会会長 篠田 昭～

2 トピック

- ・「ザ・シンポジウムみなとin石狩」が開催されました！！
(北海道開発局 港湾計画課)
- ・直江津港エネルギー港湾 完成・利用開始記念式典を挙行！
(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所)
- ・市杵島姫も喜んでいるでしょう ～神ノ島の海岸清掃活動に参加しました～
(九州地方整備局 苅田港湾事務所)
- ・浚渫技術に興味津々！ ～JICA研修で海翔丸視察～
(九州地方整備局 関門航路事務所)

3 お知らせ

1 ポートエッセイ 「日本海沿岸に世界都市が誕生」
～日本港湾振興団体連合会会長 篠田 昭～

江戸時代には北前船でにぎわった日本海は、明治以降、鉄道の時代が始まると影が薄くなった。特に戦後は、日本海が東西冷戦の最前線となり、「凍り漬けの海」の時代が長く続いた。

ソ連の崩壊でロシアが復活し期待が高まったが、ロシアの経済改革は成果が上がらず、世界金融危機の悪影響もあって、日本海は再び「凍り漬け」に戻りつつあった。

その状況が大きく変わりだしている。まずはロシアのエネルギー大国化の歩みである。昨年は新潟港にもサハリン2のLNGが入りだし、東シベリアからの石油パイプラインも日本海に向けて伸びている。

そして来秋には新潟から900キロほどの距離にあるウラジオストクでAPEC首脳会合が開催される。私は7月と8月にウラジオを訪れ、準備状況などを視察してきたが、会議場となるルースキー島には既に建物群が偉容を現し、ウラジオ市街地から島に架かる長大橋も橋げたが伸び始めていた。橋脚と橋脚の間が世界一広いことがウラジオっ子の自慢である。

新たな滑走路と空港ターミナルも建設が進み、空港から街に向けて高速道路の建設が佳境に入っている。これまでウラジオの暖房などには石炭火力が使われていたが、それも環境負荷の少ないLNGに切り替えられ、ウラジオは世界都市としての姿を日に日に整えつつある。

極東に力を入れてきたプーチン氏が大統領に返り咲く状況も、ウラジオ市幹部の自信につながっている。

ウラジオと姉妹都市となって20周年となる新潟市としても、会議運営のソフト面などを支援し、日本海沿岸に誕生する世界都市を支援するつもりだ。

*:

2 トピック

*:

◆「ザ・シンポジウムみなとin石狩」が開催されました！！

(北海道開発局 港湾空港部)

10月29日(土)、ザ・シンポジウムみなと実行委員会主催による「ザ・シンポジウムみなとin石狩～みなとからはじまる石狩市民の安心・安全～」が約250人の来場者のもと石狩市内で開催されました。

今年度は東日本大震災を契機とし、改めて安心・安全な生活を営むにあたっての港湾の役割を考えるため、官民が連携して大規模災害緊急対応の検討会を設置するなど、道内港湾の中で先駆的な取り組みを進めている石狩湾新港を舞台に、第一部では、日本港湾協会鬼頭理事長が「東日本大震災と港湾の役割」、国土交通省北海道局川合参事官が「大規模災害後の石狩湾新港とその周辺地域が担う役割」と題してそれぞれ基調講演を行いました。第二部では北海商科大学の佐藤教授をコーディネーターに迎え、石狩市 田岡市長、石狩湾新港管理組合 佐々木専任副管理者、石狩商工会議所 氏家副会頭、石狩開発(株) 谷藤常任顧問、川合参事官をパネリストとして「安心・安全な市民生活と石狩湾新港の役割」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

質疑応答では一般市民の方からの発言もあり、大規模災害の際に港湾が果たす役割について、地元の期待と熱意を感じるシンポジウムとなりました。



パネルディスカッションの様子

◆直江津港エネルギー港湾 完成・利用開始記念式典を挙行政

(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所)

◇完成・利用開始記念式典を挙行政

10月8日(土)、北陸地方整備局と新潟県、上越市の共催で、直江津港エネルギー港湾完成・利用開始記念式典が直江津港において挙行政されました。地元選出議員をはじめとする約150人の出席のもと、前川秀和北陸地方整備局長の式辞、前田武志国土交通大臣挨拶(松原裕港湾局計画課長代読)の後、大野裕夫新潟県副知事が「現在整備されているすべてのLNG(液化天然ガス)タンクが稼働すると、新潟東港と合わせてLNG取扱量が、日本海側でトップとなる」とエネルギー供給拠点としての重要性を強調しました。また、村山秀幸上越市長からも「新たにエネルギー港湾としての機能を持つことになり、日本海側拠点港選定に向け地域一丸となって取り組みたい」とあり、水野明久中部電力(株)社長の受益者代表挨拶、来賓祝辞と続きました。



完成・利用開始記念式典の様子

◇直轄事業で外郭施設を整備

新潟港湾・空港整備事務所では、LNG船入港時及び荷役時の港内静穏度を確保するため、防波堤整備に取り組んできました。平成23年9月に、沖防波堤(沖)延長2,500mと防波堤(第3東)延長660mが完成しています。



直江津港エネルギー港湾整備事業の概要

◇LNG第一船が入港

10月8日(土)、LNGを載せたタンカーが直江津港に初めて入港しました。長さ285m船幅43mのタンゲー・バトゥール号は専用棧橋に着岸し、インドネシアから運んできた約150,000klのLNGが、11月から試運転を開始する上越火力発電所の燃料として備えられます。



LNG第一船が入港



着棧するLNG船

◆市杵島姫も喜んでいるでしょう ～神ノ島の海岸清掃活動に参加しました～
(九州地方整備局 苅田港湾事務所)

平成23年10月18日(火)、苅田町内の官公庁及び企業で構成される苅田港美化協議会の主催により「神ノ島(こうのしま)」の海岸清掃活動を行いました。

「神ノ島」は陸から約500m、苅田港内に浮かぶ無人島で、海上交通の守護神と言われる市杵島(いちきしま)神社があり、市杵島姫が祀られています。

海岸清掃活動は年1回行われ、苅田港美化協議会の活動としては今回で15回目となります。

当日は晴天に恵まれ、参加者72名は2班に分かれて島の南側と西側の海岸清掃に汗を流しました。

狭い海岸ですが、集められたゴミの量は約8tもあり、なかには自動車のドアの一部などの粗大ゴミも見られました。

清掃後の海岸と透明度の高い海面を見ると、改めてきれいな海を後生に残していきたいと感じました。



清掃活動の様子



神ノ島全景

◆浚渫技術に興味津々！ ～ J I C A 研修で海翔丸視察～
(九州地方整備局 関門航路事務所)

2011年10月4日に、JICAイラク国別研修の一環として、研修生5名が大型浚渫兼油回収船「海翔丸」に乗船して浚渫作業を視察しました。

「海翔丸」乗船をとても楽しみにしていたというだけあって、どの説明に対しても質問責めに。3時間半の行程を終えたあと、「とても勉強になりました。とても楽しかったです。」という言葉いただきました。



甲板部で、浚渫作業や油回収作業を説明



「海翔丸」

